

「お酒を語る会」議事要旨

1 日時 平成 18 年 11 月 13 日（月） 15:00～17:00

2 場所 関東信越国税局第二会議室

3 出席者

【消費者等 10 名（敬称略・五十音順）】

秋本建二	酒類小売業
阿部悠	大学生
伊藤嘉基	中小企業診断士（司会者）
佐藤榮治	料飲店経営
滝澤英之	清酒製造業
中嶋桂子	大学生
野村崇倫	大学生
松嶋美恵	大学生
武藤広子	主婦
山口玲子	主婦

【酒類業界代表者：3 名（敬称略）】

小山景市	日本酒造組合中央会	関東信越支部支部長
北村光弘	全国卸売酒販組合中央会	関東信越支部支部長
杉田靖寿	全国小売酒販組合中央会	関東信越支部支部長

【国税局：5 名】

若狭国税局長、松本課税第二部長、大久保酒類監理官、濱田鑑定官室長
中井酒税課長

4 内容

局長あいさつに引き続き出席者の自己紹介を行った後、各参加者から消費者の視点に立ったお酒のあり方等について意見交換が行われた。概要は次のとおり。

- (1) お酒との関わり等について
- (2) お酒のイメージについて
- (3) 飲酒スタイル等の変化について
- (4) 清酒に関する情報等について

(1) お酒との関わり等について

【日常生活におけるお酒との関わりについて】

『日頃から飲んでいるお酒の種類、頻度及び飲む場所等について』の問いかけに対する意見

(大学生)

- ・ サークル活動が終わった後に、週に1回のペースで、料飲店で飲んでいる。
- ・ 料飲店で飲むことが多い。
- ・ サークルで毎週飲んでいる。
- ・ 自宅や友人宅で飲むことが多い。
- ・ 自宅で週1～2回程度、料飲店では月1回程度飲んでいる。
- ・ 飲むお酒は、ビールやサワー系が多い。
- ・ 清酒はアルコール度数が高く、次の日に残るのであまり飲むことはない。
- ・ お酒はあまり飲めないが、飲み会の雰囲気は好きなので飲み会には出席している。
- ・ おいしいお酒を少しずつ飲むのが好きである。
- ・ つまみになる食べ物に合わせて、お酒を飲んでいる。

(主婦)

- ・ お酒を飲むことは苦手でありあまり飲むことは出来ないが、飲み会の雰囲気は好きなので、参加している。
- ・ 普段は家族で飲んでいるが、付き合いの関係上、外で飲むこともある。
- ・ お酒はコミュニケーションを図るための手段であり、飲んで楽しくなるようなお酒の飲み方が好きである。
- ・ 家庭で飲むためのお酒は、スーパーやスーパー内の酒店で購入している。

(流通業者等)

- ・ まずは自分で試飲したり、蔵元さんの造りに対する情熱等を確認した上で、お客様に販売している。
- ・ 自分の勧めたお酒を買ってくれたお客様が、「おいしかったヨ」と喜んでいただけることに販売店の生きがいを感じる。
- ・ お酒を飲むことは好きであり、特に清酒にはあこがれを感じている。
- ・ 大学を卒業し実家で酒造りを始めてからは、清酒を飲んでいる。
- ・ お酒を飲みに行っても、周りの人はなかなか清酒を飲んでくれないので、自ら率先して清酒を飲んで周りの人にも広めている。

【お酒を飲む場面について】

『どんな気分の時、どんな場合に飲んでいるのか』という問いかけに対する意見

(大学生)

- ・ その時の気分左右されることなく、気の合う仲間たちとにぎやかに飲んでいる。
- ・ 何かと悩んでいたたり気持ちが落ち込んでいる時に、気晴らしで飲むと気分がすっきりするので飲む。
- ・ 気分が晴れやかな時やテンションの高い時に飲む。
- ・ 気分が明るい時やお酒に合うような良い食材が入った時に飲む。

(2) お酒のイメージについて

【お酒に対するイメージについて】

『清酒・しょうちゅう・ワインに対して持っているイメージについて』との問いかけに対する意見

(大学生)

- ・ 清酒は年齢層の高い人やサラリーマンが飲んでいるお酒のイメージがあり、若者はサワー系のアルコール度数の低いお酒を飲んでいるイメージがある。
- ・ 清酒はおじさんの飲み物のイメージがある。
- ・ 若い人で清酒を飲んでいる人が少ないためか、私（女性）が清酒を飲むとおじさん達に喜ばれる。
- ・ しょうちゅう自体に特にイメージはないが、本格と名前が付いているものについては、高そうな感じがする。
- ・ しょうちゅうについてのイメージはない。
- ・ しょうちゅうを含む蒸留酒はアルコール度数が高く苦手である。
- ・ ワインはいわゆるセレブな人達が飲んでいるイメージがある。
- ・ ワインは30歳代の人達が飲んでいるイメージがあるが、個人的にはワインを飲んでみたいと思っている。
- ・ ワインはお洒落な雰囲気があり、清酒は親父が飲む酒のイメージがある。
- ・ ワインはお洒落なイメージがある。

(主婦)

- ・ 清酒は味わいや深みがある。
- ・ しょうちゅうについてのイメージは特にないが、芋しょうちゅうや蕎麦しょうちゅうについては、香りで分かる。
- ・ ワインは渋みや甘味があるが、清酒ほどではない。

(3) 飲酒スタイル等の変化について

【お酒の飲み手の変化について】

『ここ10年程度における飲み手の変化について』との問いかけに対する意見

(流通業者等)

- ・ 昭和50年代の後半頃は清酒やウイスキーが主流であったが、昭和60年頃からサワーが台頭し、現在では本格しょうちゅうが主流である。
- ・ 清酒は生酒や地酒が若干復活しつつある。

【お酒の飲み方・飲む量について】

『最近の皆さんや周りの人達の飲み方や飲む量について』の問いかけに対する意見

(大学生)

- ・ 一次会として料飲店でお酒を飲むが、二次会以降はお酒を飲むのではなくカラ

オケに行っている。

- ・ 大学で清酒のきき酒会を開催したところ、淡麗なものではなく、芳醇で香りの高いものが好まれた。

(主婦)

- ・ お酒は年齢を重ねるにつれ、飲む量が減り、アルコール度数も低いものを飲むようになってきた。
- ・ 料飲店で飲んでいて思うことは、女性で清酒の生酒を飲む人が増えてきたことである。
- ・ 以前は酒販店に美味しいお酒を求めに出かけていたが、最近では行かなくなった。

(流通業者等)

- ・ 清酒についてはお燗酒を注文するお客様が増えてきている。
- ・ 5～6年前頃から本格しょうちゅうを購入するお客様が増えてきたが、本格しょうちゅうに慣れ親しんだ人は、味の濃い清酒を選ぶ傾向があると感じている。
- ・ 家庭において、清酒のお燗酒を楽しんでいるお客様が増えてきている。
- ・ 清酒はお酌をしたりするのが面倒であることや、アルコール度数が高く二日酔いになりやすいという理由で、敬遠されているのではないかと思っている。
- ・ 最近、清酒マニアの間では濃い味の清酒が人気であると聞いている。
- ・ お客様一人当たりの飲酒量は、昔に比べて極端に減少している。
- ・ 食材に合うお酒を購入していくお客様が多い。
- ・ 外で飲んでいて思うことは、サワー系のお酒を飲んでいる人が増えている。

【清酒を次の日に残さないための方策について】

『清酒は翌日に残るとのイメージを持たれているが、飲んでも次の日に残らないようにするためには』との問いかけに対する意見

(主婦)

- ・ 気分が良くなったところで、それ以上飲むことを止めておく。

(流通業者等)

- ・ 酒一升・水一升という言葉があるように、清酒を飲むときは水も一緒に飲むと良いといわれている。

なお、日本酒造組合中央会では、この水を「和らぎ水」と称し、推奨しているところである。

(4) 清酒に関する情報等について

【清酒に関する情報の入手について】

『清酒に関する情報をどこから仕入れているのか、また、清酒の情報を知りたいと思うのか』という問いかけに対する意見

(大学生)

- ・ 料飲店に飲みに行ったときに、メニュー表から情報を得ている。
- ・ 特に興味がないので、情報を得ようとは思わない。
- ・ インターネットや行きつけの専門の酒販店より情報を得ている。
- ・ インターネットや雑誌から情報を得ている。

(主婦)

- ・ 清酒に関する事だけのために、インターネットから情報を得ようとは思わない。
- ・ このお酒はおいしい等、人づてに聞いたり、口コミで情報を得ている。

【清酒を購入する際のポイント】

『自分で飲む清酒の銘柄を決める際のポイントは何か』という問いかけに対する意見

(大学生)

- ・ 行きつけの酒販店で試飲をさせてもらい、自分の気に入った清酒があったときに購入する。
- ・ インターネット等で広告している商品は、企業が力を入れておりはずれがないと思われるので、清酒に限らず購入してみる。
- ・ 過去に飲んだときの経験から購入するかどうか決める。

【清酒に関する情報発信の現状について】

『清酒の情報を消費者に対して、どのように発信しているのか』という問いかけに対する意見

(流通業者等)

- ・ メニュー表に清酒の商品紹介は行っているが、季節の料理に合った清酒の紹介までには至っていないのが現状である。
- ・ お客様に旬の清酒を PR するとともに、店内のショーカードに清酒の情報を記載し、PR をしている。
- ・ 主催している地酒の会において、お客様を対象に清酒の勉強会や情報の提供を行っている。
- ・ アイテムごとに甘辛、香り及び日本酒度を情報として、インターネットに掲載している。
- ・ デパート等で展示即売会を開催し、お客様に試飲してもらい商品の PR を行っている。
- ・ 酒造組合主催の試飲会に参加し、一般の消費者を対象に商品の PR を行っている。
- ・ 酒類業者に対しては、情報を欲しがっている者には提供をしているが、それ以外については情報提供ができていない状況である。

【消費者が希望する清酒の情報について】

『清酒について、どのような情報を発信して欲しいか』との問いかけに対する意見
(大学生)

- ・ 具体的な味、甘辛及び料理との相性についての表示が欲しい。
(主婦)
- ・ 単に甘辛を表示するのではなく、ワインのように具体的な味の表示が求められるほか、料理と清酒との相性についても、具体的に表示が必要である。
- ・ 売れ筋商品である旨の表示や人気商品である旨の表示があると興味が出てくる。
- ・ こんな料理にはこの清酒が合うというような、具体的な表示が店頭があればと思う。

【清酒に求められる情報発信の手段・方法等について】

『清酒に関しての情報発信の状況についてどう思うのか、また、どうすれば消費者を引き付けることが出来ると思うか』という問いかけに対する意見
(大学生)

- ・ テレビを見ていると、清酒に関する CM は年齢層が高い人を意識して製作しているように感じられ、結果として清酒は若者には敷居の高い飲み物という印象を感じてしまう。
- ・ 若者受けのするテレビ CM や宣伝をしてみてもどうか。
- ・ 若者が読んでいる雑誌には、サワーやカクテル系のお酒の記事は掲載されているが、清酒の記事は見たことがない。
- ・ 若者向けの雑誌にお洒落な広告を掲載すれば、若者も興味を持ってくれると思う。
- ・ 清酒はどうしても昔からの父親が飲んでいるイメージがあるので、それを払拭するために、ファッション雑誌などに清酒のお洒落な広告や記事での紹介がされれば、興味が沸いてくると思う。
- ・ 清酒を身近なお酒として感じさせるために、もっと目に付くようにさせるべきである。

(流通業者等)

- ・ 清酒を白ワインのような地位に見立てて、お洒落なイメージでの提供を考えるべきである。
- ・ 清酒に関する情報は、他のお酒に比べてあるようでないのが実情なので、供給する側はもっと情報を提供してもらいたい。
- ・ 不特定多数の人を対象とした情報の提供は難しいことであると思う。
- ・ 主催している地酒会の参加者に対しては、勉強会等で個別に情報提供している。
- ・ 酒販店は敷居が高いとの話があったが、気軽に店に来て声を掛けていただき、情報を得ていただきたい。

- ・ 清酒の業界は敷居が高く、閉鎖的であるとの話があるが、今後は改善していく必要がある。
- ・ リスクはあるものの、消費者に実際の酒造りを見ていただき、清酒を造るのに丁寧に手間を掛けていることを理解してもらいたい。

【初めて清酒を飲む人に対して勧誘する言葉について】

『清酒を一度も飲んだことのない友人に、清酒を勧めるとしたらどんな言葉を掛けるか』という問いかけに対する意見

(大学生)

- ・ この清酒は、この料理に合うお酒だから飲んでみて。
- ・ この清酒は名産だから、有名だから飲んでみて。
- ・ 一口でも飲んでみて。
- ・ 飲めば分かるから、飲んでみて。

(主婦)

- ・ おいしいから飲んでみて。
- ・ 飲まないから良さが分からないの、飲んでみて。

(流通業者等)

- ・ 差しつ差されつ、飲みませんか。
- ・ いい酒蔵を見つけてきたよ、飲んでみませんか。
- ・ まずは、見学に来てください。

5 「お酒を語る会」を振り返って（あとがき）

大学生や主婦の皆様方から、お酒のイメージ、飲酒スタイル及び清酒の情報提供のあり方等についてご意見をいただき、お酒に関する新たな課題を発見することができたのではないかと考えています。

例えば、大学生や主婦層は、清酒に対しては「中年男性が会社帰りに居酒屋で飲み、時として二日酔いになって後悔している」といったイメージを抱いており、新たな需要層として期待するためには、こうしたイメージを払拭する必要があると感じました。

清酒の飲酒スタイル（料理のあり方）も、酒肴という言葉が表すように、従来の「飲みたい清酒に合うようなつまみ（料理）を食しながら飲む」というものから、近年はワインなどと同様に「料理を美味しく食するための清酒を選んで飲む」という方向に変化してきており、清酒を提供する側も、こうした変化を念頭においた市場リサーチや商品開発が求められていることを改めて感じています。

この懇談会を通じて、“すべての蔵元が持っている酒造りへの情熱とその地域ならではの地酒の魅力”が、情報として十分かつ正確に消費者に伝わったとき、多くの家庭の食卓に清酒が並ぶようになるのでは、といった感想を持ちました。